

ブランドン・トロポフ 元キリスト教徒の米国人

(前編)

改宗の波

もしこれを読んでいるあなたがキリスト教徒なのであれば、イエス（神の慈悲と祝福あれ）の信仰が、現在メディアで喧伝されているような、世界中で問題を巻き起こしている人々と同じものであるという考え方は、突拍子も無いものと映るかも知れません。私も福音書の研究を始める前は、そういった考え方に初めて遭遇したとき、とんでもないものだと思います。しかし、非常に多くの現代キリスト教徒たちが、福音書のメッセージとイスラームとの関係を基に、人生を変える個人的結論を導き出しているという事実を知るべきでしょう。

「9・11以来、イスラーム改宗者の急増が、有力な根拠と共に報告されています。それは英国だけでなく、ヨーロッパ全体と米国においても同様です。オランダの某イスラーム・センターでは10倍の増加が、そしてレスターの元カトリック・アイルランド人主婦によって運営されている『ニュー・ムスリム・プロジェクト』では安定した増加傾向が報告されています。」（ロンドン・タイムズ、2002/1/7）

主流メディアによるだんまり

欧米メディアでは、世界全体でのイスラーム改宗者増加の実例をほとんど報じませんが、もしそれらの人々の多くが私のような人物だったのなら、イエスの指示に従うことなく彼を「主」と呼ぶことに懸念を感じたのではないかと推測します。彼らはメディアの報じる社会情勢などよりも、そちらの方をより重要視したのです。

このような懸念は、人々の人生を変えてしまうのです。

Qの挑戦

個人的に言えば、私が自らの人生を変えた理由は、今日の最も著名な（非ムスリムの）学者たちが、現存する最古のものであると見なしている福音書のくだりが暗示するものを無視することが出来なかったからです。

これらのくだりは、Qとして知られる資料を再建し、そのすべてを新約聖書の中から見いだすことが出来ます。それらはほぼ確実に、イエス

（神の慈悲と祝福あれ）が実際に言ったとされる、私たちが今なお触れることの出来る真正な口伝に最も近いものです。

イスラムを確証するQ

Qについて知らなかったのであれば、新約聖書学者たちがこれまでに発見した、福音書における他の部分よりも教育的であるだけでなく、歴史的にも関連性の高い特定のくだりが存在するということを知るべきでしょう。この研究成果によって、学者（また少数の一般人の）間では極めて魅力的な議論につながりました。

Q資料は、イエスが神によって遣わされた人間の預言者であるという、ムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）の教えを確証する傾向にあるのです。

人間の預言者

Q資料の論説を発明したのは私ではありません。それは長年に渡って存在していたものです。「伝統派」キリスト教聖職者・神学者たちは、一般的にそれを認めません。彼らによると、Q資料の研究者たちはイエス（彼に平安あれ）の地位を貶めるのに勤しんでいるというのです。しかし実際には、私たちはイエスが本当はどういうことを言っていたのかを突き止めようとしているに過ぎません。

Q資料は、近代キリスト教への挑戦を挑むものです。なぜならそれは、イスラームによるイエス像が歴史的に正しかったことを強く示唆するからです。Q資料が事実上、イスラームのイエス像を確証しているということは、今日のキリスト教徒たちによって広く認知されてはいません。聖典の綿密な調査は、イエスが実際には人々をイスラームへと呼びかけていたことを明らかにします。

私をイスラームに導いたイエス

私は伝統的キリスト教への数十年に渡る絶え間ない不満の末、イスラームに辿り着きました。アルハムドゥリッラー（神にすべての称賛あれ）。2003年の3月にイスラームへ改宗して以来、たくさんの改宗記を読みましたが、福音書が原因でクルアーンを受け入れたというものを殆ど見かけたことはありません。私にとっての改宗理由はそれでした。

私が育ったのはキリスト教的な家庭ではなかったにも関わらず、11歳のときから福音書に惹かれており、自ら義務的に読みふけていました。やがて私は宗教的な事柄は内面にしまっておくことを学びました。

初期の疑問

青年期になると、私はキリスト教の聖典を独学で学ぶようになりました。子供のときに買った、赤い欽定訳聖書もまだ持っています。そこにあった自筆のメモは、私が1974年の6月26日に、イエスを自らの救世主として認めたことが記されてあります。

私は聖典を義務的に読みふけたと既述しましたが、それはマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの福音4書をむさぼり読んでいたという意味です。私の聖書には、詩篇書、伝道の書、箴言書にも沢山のメモが書かれていましたが、大半のメモや下線は福音書にありました。しかし、私が愛したそれらのテキストは、少年だった私にさえ内的葛藤をもたらしたのです。

福音書を書き換えた者は誰か

ルカ書の22章で、イエスが弟子たちから離れて祈りを捧げ、戻ってくると彼らが熟睡している場面を読んだときが明白に記憶に残っています。一体誰が、彼が礼拝しているのを目撃し、その出来事を報告し、福音のルカ書に収めたのでしょうか？ また、私が福音書でおかしいと感じた箇所には、イエスの語った言葉とされる、「読む者には理解させよ」というくだりがあります。さらに、新約聖書の著者が1世紀のキリスト教徒たちに、メシアの再臨が彼らの時代に起きることを保証する場面があります。近代キリスト教の教義において、私が相容れないと感じた部分です。私が15歳にも達していなかったとき、これらやその他の疑問が浮かび上がりました。誰かが福音書を改竄したのでしょうか？ もしそうなら、一体誰が、何のため？

私はこれらの疑問をとりあえず後のために「封印」し、問題は私が敬虔なキリスト教コミュニティに属していないことであることにしてしまいました。

カトリック

18歳で、私は東部の大学に通い始め、ローマ・カトリック教会に入会しました。大学では美しく思いやりのある女性に出会い、彼女は私の人生における善き伴侶・支持者となりました。彼女は信仰心が強いとは言えませんでした、**これらのことが私にとって重要であることを理解し、信仰**

の支えとなってくれました。彼女の無尽蔵であるかのような強さ・支援・愛情と、私たちの馴れ初めを数行の文章に凝縮してしまうことは、彼女に対する大きな不義です。

聖職者との出会い

私は誠実かつ敬虔なキャンパス聖職者に、私が問題を抱えていた福音書のくだりについて尋ねましたが、彼は冷静さを失い、話題を変えてしまいました。別の機会に、彼には私がヨハネの福音書を集中的に学んでいることを伝えていました。というのも、その福音書は問題の出来事における第一人称の報告だった（と私は当時思い込んでいた）からです。

彼はまたしても口ごもりつつ話題を変え、他の福音書に対するひとつの福音書の優越性については語りたがりませんでした。彼は単に、福音4書はすべて重要であり、すべてを学ばなければならないと言い張りしました。この出来事は、私にとって結果的にひとつの転機となりました。

キリスト教、それともパウロ神学？

これは私の人生記ではなく改宗記であるため、数々の重要な出来事を早送りします。あの敬虔なキャンパス聖職者は、私と恋人の結婚を取り持ってくれました。私たちはマサチューセッツの郊外に居を構え、お互いに職を持ち、3人の美しい子供たちに恵まれました。私は聖書を読む習慣を棄てませんでした。私は「灯火と目」、「放蕩息子」、「真福八端」、祈りの重要性や、その他多くの言葉にかつてなく魅了されていました。しかし私は、新約聖書の「構造」にまつわる問題、特に使徒パウロのそれに頭を悩ませていました。パウロが発展させた神学は、イエスの実際の言葉には基づいていなかったという事実は、私にとってはとてつもなく大きな問題でした。

1990年代の中頃、私と妻はカトリック教会に対して深く失望していました。その原因のひとつに、コミュニティの要望に全く注意を払わなかった実に酷い聖職者がいたことです。後日、彼は幼児虐待者をかくまっていたことが分かりました。

プロテスタント

私は信仰深いコミュニティに属する必要性を感じていました。私は地元のプロテスタント教会の一派である会衆派教会に入会し、活動を始めました。

私は子供たちの日曜学校だけでなく、一般聴衆向けの福音書のたとえ話のクラスも担当しました。日曜学校では与えられたカリキュラムに沿った教育をしていましたが、一般向けのクラスでは、参加者に対し、彼らが使徒パウロの色眼鏡を通さずして、特定のたとえ話に直接向き合うよう挑んでみました。そこでは興味深い議論もありましたが、一部には抵抗があることも感じたため、それ以来一般向けのクラスは担当しなくなりました。やがて、妻も教会に参加するようになりました。彼女は今現在もそこに所属しています。

当時、私はキリスト教の秘教的伝統と、スーフィー、そして禅仏教の共通点に深く関心を抱くようになっていました。私はその主題で書き物をしたためた程です。しかし私の通う教会には、こういった分野の興味を私と共有してくれる人は誰一人として見つけることは出来ませんでした。

(後編)

福音書のくだけ

福音書のなかの最も古い部分が、Qとして知られる、極めて初期の口伝に反映されていることを示す研究成果、またイエス（神の慈悲と祝福あれ）の残した言葉のそれぞれが、それを取り囲む伝承の関連資料としてではなく、その功德が検証されなければならないという研究に対し、私は特に興味をそそられました。

なぜなら、その伝承の関連資料は後年になって付け加えられたものだからです。

目撃者による証言？

事実、この分野について調べれば調べる程、ヨハネの福音書に関する聖職者との以前の会話が思い出されました。彼が私に何かを言うのをためらった（あるいは出来なかった）のは、ヨハネの福音書の著者が虚偽を記していたことだったのだと気付いたのです。これは目撃者による証言であると主張しているものの、実際にはそうではないのです。

私は微妙な立場に立たされました。私は献身的かつ敬虔な教会の同胞たちとの親睦をととても楽しんでいました。宗教的なコミュニティに属することは私にとっては重要だったのです。

三位一体論との格闘

この件について調べるにつれ、福音書において最も真正であるかに見えた三位一体の概念に対し、納得することが不可能となりました。私はいくつかの非常に困難な問題に直面しました。

福音書のどこで、イエスは「三位一体」と言ったのでしょうか？

三位一体論の言うように、もしイエスが神なのであれば、どうして彼は神を崇拝したのでしょうか？

そして、もしイエスが神なのであれば、なぜ彼は以下のようなことを言ったのでしょうか？

“なぜ、わたしを『善い』と言うのか。神おひとりのほかに、善い者はだれもない。”（マルコ10：18）

彼はこれを言ったとき、自分が神であることを忘れたのでしょうか？

（ちなみに、ある女性とこのくだりについての議論をしましたが、彼女はこれは福音書からではないと断言し、私が実際にその章と節の番号を指し示して彼女自身に確認させるまで、そのことを信じようとしませんでした。）

聖クルアーン

2002年の11月に、私はクルアーンの翻訳本を読み始めました。

私はそれ以前に、クルアーンの英語訳全文を読んだことはありませんでした。ただ、非ムスリムによるクルアーンの概要を読んだだけでした（そしてそれは非常に誤解を助長させるものでした）。

この本が私に与えたとてつもない影響を言葉で的確に表すことは出来ません。11歳のときに私を虜にした福音書の魅力が、新たなそして絶対的な形でそこには存在していました。この本は、究極的な関心事についての事柄を、まるでイエスがそう語っていたかのように私に語りかけました。

真正の導き

クルアーンは、私が長年に渡って福音書から探し求めていた疑問の回答を、権威ある否定しがたい形によってもたらしました。

“啓典と英知と預言者としての天分を神からいただいた一人の人間でありながら、後になって人びとに向い、「あな

たがたは神の外に、わたしを崇拝しなさい。」とは言えない。むしろ「あなたがたは、主の忠実なしもべとなりなさい。あなたがたは啓典を教えられているのである。それを誠実に学びなさい。」と（言うべきである）。かれは天使や預言者たちを主としなさい、と命じることも出来ない。あなたがたがムスリムになった後、かれがどうして、不信心をあなたがたに命じることが出来ようか。”（クルアーン 3：79-80）

私がクルアーンの教えに惹かれたのは、それがイエスの教えをととも力強く確証することによって、真正であることが直感的に理解出来たからです。福音書は人の手によって改変されており、クルアーンではその失われた部分が手付かずに残っていると感じました。

驚くべき共通点

以下では、私が心を神の崇拝へと動かしたもののの中から、いくつかの例を挙げてみましょう。福音書の節のそれぞれは、現存するメシアの教えに相当すると学者が見なす、Qとして知られる復元資料からのものです。これらがクルアーンの教えといかに類似しているかに注目してください。

クルアーンにおけるタウヒード（一神論）に同意するQ

Q資料において、イエスははっきりと一神論を語ります。

“イエスは（悪魔に）お答えになった。「『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』と書いてある。」”（ルカ4：8）

比較してみてください。

“アダムの子孫よ、悪魔に仕えてはならないと、われはあなたがたに命令しなかったか。かれはあなたがたの公然の敵である。あなたがたはわれに仕えなさい。それこそ正しい道である。”（クルアーン36：60-61）

クルアーンにおけるアカバ（陰しい道）に同意するQ

Q資料は、正しい道とは陰しいものであり、不信仰者はそれに従わないであろうことを述べます。

“狭い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだす者は少ない。”（マタイ7：13-14）

比較してみてください。

“現世の生活は、不信心な者たちにとり魅惑的である。そしてかれらは信仰する者たちを嘲り笑う。だが（主に対して自分の）義務を果たす者は、復活の日にかれらの上位に立つであろう。”（クルアーン2：212）

“陰しい道が何であるかを、あなたに理解させるものは何か。（それは）奴隷を解放し、または飢餓の日には食物を出して、近い縁者の孤児を、または酷く哀れな貧者を（養うこと）。それから信仰する者になって忍耐のために励ましあい、互いに親切、温情を尽しあう（ことである）。”（クルアーン90：12-17）

クルアーンにおけるタクワ（神への畏怖心）に同意するQ

Q資料は、神の審判のみを畏れるよう私たちに警告します。

“友人であるあなたがたに言うておく。体を殺しても、その後、それ以上何もできない者どもを恐れてはならない。だれを恐れるべきか、教えよう。それは、殺した後で、地獄に投げ込む権威を持っている方だ。そうだ。言うておくが、この方を恐れなさい。”（ルカ12：4-5）

比較してみてください。

“天と地とにある凡てのものは、かれに属し、また服従は絶えずかれに対してだけある。それであなたがたは、神以外に（何を）畏れるのか。”（クルアーン16：52）

クルアーンにおけるドゥンヤ（現世）の罫に同意するQ

Q資料では、イエスが人類に対し、現世での成功と満足が、人生の目的であってはならないことを警告します。

“しかし、富んでいるあなたがたは、不幸である。あなたがたはもう慰めを受けている。今満腹している人々、あなたがたは、不幸である。あなたがたは飢えるようになる。今笑っている人々は、不幸である。あなたがたは悲しみ泣くようになる。”（ルカ6：24-25）

比較してみてください。

“あなたがたは（財産や息子などの）多いことを張り合っ
て、現を抜かす。墓に追い立てられるまでも。いや、やが
て（死後）あなたがたは（その真実を）知ろう。もう一度
言おうか、いや、やがてあなたがたは知ろう。いや、あな
たがたは（今に）はつきり知るとよいのである。あなたが
たは必ず獄火を見よう。その時あなたがたはそれを明確に
目で見ることであろう。その日あなたがたは、（現を抜か
していた）享樂に就いて、必ず問われるであろう。”（クル
アーン102：1-8）

天国が確約されたものではないことを警告するQ

また、すべての人を謙虚にし、精神的事柄における傲慢さを取り除き、一神教徒の同胞への攻撃を止めさせるであろう、メシアによる以下の言葉について考えてみてください。

“言っておくが、いつか、東や西から大勢の人が来て、天の国でアブラハム、イサク、ヤコブと共に宴会の席に着く。だが、天の国を所有していると思い込んでいる者たちは、外の暗闇に追い出される。そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう。”（マタイ8：11-12）

これは明らかに、すべての善意ある人々にとって重要な教えであり、記憶に留められておくべきものでしょう。

十字架へのはりつけや犠牲について全く言及しないQ

歴史的に最古の節々であるとされるQ資料は、クルアーンの教えと通底します。また、特筆すべきこととしては、Q資料が十字架へのはりつけや、犠牲としてのイエスの役割について全く言及していないという事実です。それは、実に興味深いことなのです。

この驚くべき初期の福音書は、（非ムスリムの）学者たちが歴史的にイエスに最も近いと見なすものです。この福音書には以下の特徴があります。

神の唯一性の非妥協性におけるクルアーンとの一致。

現世の行いに基づいた、救済または火獄という来世の存在におけるクルアーンとの一致。

現世の魅力や快樂に惑わされてはならないというクルアーンの警告との一致。

そして、

十字架におけるイエスの死、復活、そして人類**のための**犠牲になったとされることに関する記述の完全な欠如。

これは、現在の最も優れた（非ムスリム）学者たちが特定した福音者であり、この福音者は私たちに、クルアーンと全く同じ方向性を指し示しているのです。

親愛なるキリスト教徒の兄弟姉妹の皆さん、私はあなたたちにお願ひがあります。次の疑問について、全能なる神の導きを祈ってください。「これは単なる偶然に過ぎないのでしょうか？」

そしてこれを共有してください。

私は**2003年の3月20日**にムスリムになりました。私にとっては、出来るだけ多くの思慮深いキリスト教徒たちにこのメッセージを共有することが明確となったのです。